

平成29年度包括外部監査結果の対応状況

報告書頁	指摘意見	監査箇所等	監査項目	監査結果	措置の内容
81	意見	監理課	働かせたい・働いてよかった建設業発信事業	<p>[県内建設業入職者の増加施策について]</p> <p>県内工業高校生に対するアンケートによると、建設業には魅力を感じつつも、都会へのあこがれや賃金格差から県内を出る工業高校生が多数であり、県として建設業入職候補者の県外流出に対する対策が難しい状況にある。</p> <p>県の対策の一環として、工業高校生の現場見学会、若手技術者との意見交換会を実施している。この現場見学会、意見交換会では、工業高校生が県内建設業の第一線で働く高校OBと直接対話を行い、県内建設業のやりがい等に加え、残業時間や待遇等までオープンな意見交換を行うものであり、工業高校生にとって身近かつ魅力的なロールモデルと交流できるという観点から、建設業入職者の増加施策として非常に有意義であると評価できる。実際に、アンケート結果からも「意見交換会により地元企業への関心が高まった」とする生徒が大多数であり、結果として建設業への新規高卒入職者数も平成27年度:155人から平成28年度181人へ増加した実績もある。</p> <p>県は、このような直接的な入職者増加に結びつく施策を今後一層強化していくことが望まれる。具体的には、意見交換会実施工業高校数の増加(現在は年間3校の開催に留まる)、対象を広げ工業高校生だけではなく中学生・商業高校生等へも建設業界入職の提案を行うこと、若年層への県内建設業者に就職した場合のライフステージの提案の実施等が考えられる。</p>	<p>平成30年度以降も引き続き工業高校生の現場見学会・若手技術者との意見交換会を実施しているが、令和元年度からは工業高校生以外にも建設業界入職の促進を図るため、「建設業『働いてよかった』先輩講演会」を中学生・商業高校生等を対象に実施することとした。</p>
90	意見	地域活力振興課	移住・交流推進事業	<p>[地域おこし協力隊員の分析について]</p> <p>地域おこし協力隊は各市町村が募集し採用するため、県としては、そのサポートとなるように隊員同志の交流の場の提供や隊員の生業作りのきっかけとなるような事業を提供している。しかし、隊員が青森県に移住してきたきっかけ等を詳細に分析しデータ化した資料はない。地域おこし協力隊に志願し、青森県に来た人物は、青森に魅力を感じ、移住してきた人たちであり、その分析は今後の移住者を増加させるためにも大いに参考になると思われる。隊員の移住のきっかけ、多数ある都道府県から青森県に目が留まった理由等、詳細な分析をしデータ化し各事業に活かしていくことを期待したい。</p>	<p>地域おこし協力隊の支援体制等に関するアンケートを令和元年10月～11月にかけて実施し、本県の地域おこし協力隊に応募した動機等を問う設問を設定。その結果をもとに、令和元年12月14日開催の協力隊支援体制検討のワークショップで内容を関係者にフィードバック。令和2年2月にも市町村向け研修を開催しフィードバックし、今後の採用活動に役立てる。</p>